

単元名 私たちの生活と政治 個人の尊重と日本国憲法

配当時間 18時間

- 単元の目標 (1) 人間の尊重についての考え方や法の意義、法に基づく政治及び日本国憲法の基本的原則などについて理解するとともに、民主主義や人間の尊重についての考え方や法に関する様々な諸資料から情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けることができる。
- (2) 日本の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について、個人の尊重や民主主義法の支配といった見方・考え方を生かしながら、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。
- (3) 個人の尊重と日本国憲法について、現代社会にみられる課題や解決方法を考える活動を通して主体的に社会に関わろうとする。

標準的な展開例

12220201_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 私たちの生活と日本国憲法や政治との関わりについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 漫画「文化祭の出しものを決めよう!」を読む。 ★ 漫画を通して、私たちの生活と政治の「見方・考え方」をとらえよう。 ○ 学級全員で話し合ってよかったことについて話し合う。 ○ なぜ実行委員の意見というだけでは出しものが決まらなかったのかについて話し合う。 ○ 「まんがについて」を読み、本単元の見方・考え方について話し合う。 ○ 単元の学習問題をつかむ。 ● みんなが個人として尊重される社会を実現するために、日本国憲法はどのようなはたらきをしているのだろう。 <p>2 私たちにとっての政治と民主主義について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 政治とは何だろう。また、なぜ政治が必要なのだろう。 ○ 政治のはたらきについて調べる。 ○ 民主主義について調べる。 ○ よりよい民主政治のために必要なことについて考える。 ○ 小単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。 ■ なぜ法に基づいて政治が行われることが大切なのだろう <p>3 法に基づく政治と憲法について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ なぜ憲法は必要なのだろう。 ○ 法の構成と立憲主義について調べる。 ○ 個人の尊重と法の支配の必要性について考える。 ○ 資料①にある「王様の政治」を防ぐためには、どのようなきまりをつくるとよいかについて話し合う。 <p>4 日本国憲法の制定と三つの基本原則について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 歴史の学習を踏まえると、日本国憲法にはどのような特徴があるのだろう。 ○ 大日本帝国憲法と日本国憲法を比較して分かることを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大日本帝国憲法では天皇主権だったが、日本国憲法では国民主権に変わった。 ○ 戦後、なぜ大日本帝国憲法を改めたのかについて考える <p>5 日本国憲法と国民主権について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教P. 34～35 ・ 前単元で学習した「対立」と「合意」や「効率」と「公正」の内容を振り返らせる。 ・ 本単元の見方・考え方の一つである「法の支配」と関連付ける。 ・ 教科書中から見方・考え方に該当すると思われる言葉は何かを考えさせる。 ・ 教P. 36～37 ・ 政治の決定の方法と、決定に際して守るべきルールを、民主主義に着目して追究させる。(対立と合意、民主主義) ・ 資料①を基に、政治がなかった場合の生活への影響を具体的に考えさせることで、政治のはたらきについてつかませる。 ・ 「リンカーンの演説」と「日本国憲法前文」を比較させることで、「権威が国民に由来し」「(国民主権)」「(国民の代表者がこれを行使)」「(代議制)」していることに気付かせる。 ・ アクティビティに取り組ませることで、個人の尊重や自由、少数意見の尊重といったことに配慮する必要があることに気付かせる。 ・ 教P. 38～39 ・ 立憲主義の憲法について、個人の尊重と法の支配に着目して追究させる。(個人の尊重、法の支配) ・ 憲法は国の最高法規であり基本法であることや、憲法に基づいて政府をつくり政治を行うことで権力の濫用を防ぐ立憲主義の考え方を理解させる。 ・ 資料を基に、人の支配と法の支配を比較させる。それにより、人の支配の問題点や、法の支配によって個人が尊重され、基本的人権が保障されるようになることに気付かせる。 ・ 「個人の尊重と人権の保障」の面と、「権力の制限」の面から、多面的に考えさせる。 ・ 教P. 40～41 ・ 日本国憲法が、三つの基本原則を採用した経緯について、大日本帝国憲法との比較や、立憲主義の歴史の推移、法の支配に着目して追究させる。(比較、推移、法の支配) ・ アクティビティに取り組ませることで、日本国憲法の三つの基本原則に着目させながら、二つの憲法を比較させる。 【評】大日本帝国憲法と比較して日本国憲法の特徴を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 歴史的分野での既習事項と関連付けて考えさせる。 ・ 再び戦争の惨禍が起こることのないように、立憲主義の憲法に改められたことを捉えさせる。

- ★なぜ、国民が主権をもつことが大切なのだろう。
- 国民の政治参加の方法について調べる。
- なぜ憲法の改正には、厳格な手続きが必要なのかについて考える。
- 天皇の地位について調べる。
- 6 日本国憲法と基本的人権について調べる。
 - ★私たちが当然だと思っている人権という考え方は、どのように生まれ発展してきたのだろう。
 - 人権思想のあゆみについて調べる。
 - 日本国憲法と他の憲法や宣言を比較する。
 - 人権思想の変化について、「個人の尊重」の観点から説明する。
 - 小単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。
 - 人権の尊重とは、どういう考え方ののだろう。
- 7 自由に生きるための権利について調べる。
 - ★私たちが自由に生きるために、どのような権利が保障されているのだろう。
 - 生活の中にある「自由」について発表する。
 - 自由権を「精神の自由」、「生命・身体の自由」、「経済活動の自由」の三つの分類に基づいて調べる。
 - 実例に基づいて、自由権について考える。
- 8 等しく生きる権利について調べる。
 - ★私たちの社会は、平等に関する問題に、どのように取り組んでいるのだろう。
 - 男女が平等な社会をつくるための取り組みについて調べる。
 - 障がいのある人とともに生きる社会について調べる。
 - 外国人とともに生きる社会について調べる。
 - 平等権に関する問題を解消するための取り組みについてまとめる。
 - ・男女平等な社会を実現するために男女雇用機会均等法や男女共同参画社会基本法を制定したが、未だに家事に取り組む時間は、女性の方が圧倒的に長くなっている。
- 9 差別のない社会に向けた取り組みについて調べる。
 - ★現代社会に残る差別をなくすために、どのような努力がなされているのだろう。
 - 部落差別解消に向けた取り組みについて調べる。

- ・教P. 42～43
- ・国民主権について、民主主義と法の支配に着目して追究させる。（民主主義、法の支配）
- ・生徒会活動の経験を振り返らせることで、議会制民主主義のしくみを捉えさせる。
- ・政治や裁判など、様々な場面で政治参加をしていることに気付かせる。
- ・アクティビティに取り組ませることで、「総議員の3分の2以上の賛成」や「有効投票数の過半数の賛成」といった具体的な数字に着目させ、憲法改正に関する手続きの厳格さに気付かせる。
- ・既習の「法の構成」を振り返らせ、憲法が国の最高法規であることを確認させる。
- ・天皇の発意による国事行為は認められていないことを確認する。
- ・教P. 44～45
- ・憲法と人権思想の発展を、個人の尊重に着目して追究させる。（個人の尊重）
- ・教科書の資料①を基に、時代が進むにつれて王権の制限、個人の尊重と自由権や平等権の出現、社会権の出現、という順番で基本的人権が認められていったことを捉えさせる。
- ・日本国憲法の第11条に記されている内容が、他の憲法や宣言に記された内容と共通していることに気付かせることで、これまで人類が築いてきた人権という考え方を継承していることを捉えさせる。
- ・1215年のマグナ＝カルタ以降、700年以上もの年月をかけ、ついに1948年の世界人権宣言によって個人の尊重に基づく基本的人権の尊重が国際的に保障され、人類の普遍的な価値となったことを捉えさせる。
- ・教P. 46～47
- ・自由権の意義を、個人の尊重に着目して追究させる。（個人の尊重）
- ・発表された「自由」について、資料②と対比させて何の自由に当たるのかを考えさせる。
- ・教科書P. 222～の巻末資料を使い、それぞれの権利の根拠となっている日本国憲法の条文についても確認させる。
- ・「深めよう」に取り組ませることで、知的財産権を保護するためといえども、法律の定められていない状態で個人の自由権を侵害することは許されないことを考察させる。
- ・教P. 48～49
- ・性別の違い、障がいの有無、国籍の違いについて、個人の尊重に着目して追究させる。（個人の尊重）
- ・資料②、③を提示し、憲法で男女平等を規定しつつも、実態として日本はまだ道半ばであることを捉えさせる。
- ・「合理的配慮の提供」とは、障がいのある人から何らかの助けを求める意思の表明があった場合、過度な負担になりすぎない範囲で社会的障壁を取り除くために対応する必要があることを説明する。
- ・地理的分野の学習と関連付けさせる。特に愛知県は在留外国人数が東京都に次ぐ全国2位であるため、外国人との共生は身近な問題であることを感じ取らせる。
- ・制定されている法律や社会のしくみに着目させるとともに、それらの取り組みが行われていてもまだ道半ばであることに気付かせたい
- 【評】平等権に関する問題を解消するための取り組みについてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・教P. 52～53
- ・部落差別や民族差別の問題を、個人の尊重に着目して追究させる。（個人の尊重）
- ・資料①のポスターで問いかけている内容について考えさせることで、部落差別は身近

- アイヌ民族への差別解消に向けた取り組みについて調べる。
 - 在日韓国・朝鮮人差別解消に向けた取り組みについて考える。
- 10 人間らしい生活を営む権利について考える。
★人間らしい生活を営む権利は、なぜ重要なのだろう。また、どのような権利があるのだろう。
- 人間らしく生きるために必要なものについて考え、話し合う。
 - 教育を受ける権利について調べる。
 - 勤労に関する権利について調べる。
- 11 人権の保障を確実にするための権利について調べる。
★私たちの権利を保障するための権利には、どのようなものがあるのだろう。
- 参政権について調べる。
 - 請求権について調べる。
 - 参政権と請求権が人権保障のために果たしている役割を説明する。
- 12 社会の変化と人権保障について考える。
★なぜ新しい人権が生まれたのだろう。また、新しい人権にはどのような権利があるのだろう。
- 知る権利について調べる。
 - プライバシーの権利について考える。
 - なぜ新しい人権が主張されるようになったのかをまとめ発表する。
 - ・新しい人権は、科学技術の発展などの社会の変化に伴い、そのような状況の中でも個人の権利を尊重するために、憲法第13条の幸福追求権を根拠として主張されるようになった。
- 13 科学技術の発達による人権保障の変化について調べる。
★科学技術の発展は、私たちの人権にどのような変化をもたらしたのだろう。
- 環境権について調べる。
 - 自己決定権について調べる。
 - 科学技術の発展と人権保障の課題について考える。

に起こりうる問題であることを感じ取らせる

- ・資料②と⑤を比較させることで、部落差別との一番大きな違いは、独自の文化や伝統を否定されたことにあり、そういった問題の解消をめざしてアイヌ文化振興法が制定されたことを捉えさせる。
- ・「深めよう」に取り組ませ、個人の尊重と表現の自由の関係についても関連付けて捉えさせる。
- ・教P. 54～55
- ・人間らしい生活を送るために必要なことは何かについて、個人の尊重に着目して追究させる。（個人の尊重）
- ・アクティビティに取り組ませることで、憲法第25条で規定される「健康で文化的な最低限度の生活」とはどのようなものかを考えさせる。
- ・教科書の裏表紙にある文章を確認させることで、自分たちも教育を受ける権利に基づき、無償で支給された教科書を使用していることに気付かせる。
- ・教科書P. 242の労働基準法の条文に目を通させたり、愛知県の最低賃金（2020年10月時点では927円）について知らせたりすることで将来働く時に労働条件に少しでも目が向くようにさせたい。
- ・教P. 56～57
- ・参政権と請求権の意義を、個人の尊重、民主主義に着目して追究させる。（個人の尊重、民主主義）
- ・今までに学習した国民主権や集会、結社、表現の自由とも関連させながら、基本的人権を保障するのに必要な権利であることを捉えさせる。
- ・自由権や平等権は「国家からの自由」を保障する人権であるのに対して、請求権は人権の保障を実現するために、「国家の行為を請求する」権利であることを捉えさせる。
- ・参政権については、政治に参加することがどのように人権を保障することにつながるのかを説明させる。また、請求権については、具体的にどのような場面で国に保障を求めることができるのかを説明させる。
- ・教P. 58～59
- ・知る権利とプライバシーの権利が大切な権利であることを、個人の尊重、民主主義に着目して追究させる。（個人の尊重、民主主義）
- ・主権者である国民が、政治に対して正しい判断を行い、民主政治を成立させるために知る権利が大きな役割を果たしていることを捉えさせる。
- ・アクティビティに取り組ませたり、資料⑥について考えさせたりすることで、プライバシーの権利は社会政策や犯罪捜査、表現の自由などとしばしば対立を起こすことがあることに気付かせる。
- ・根拠として、憲法第13条の幸福追求権があることや、科学技術の発展による社会の変化に対応する形で生まれたことを理解させる。
- 【評】新しい人権が主張されるようになった経緯について、科学技術の発展と社会の変化や民主主義との関係、個人の尊重といった内容から多面的・多角的に考え、表現する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・教P. 62～63
- ・環境権や自己決定権の意義を、個人の尊重に着目して追究させる。（個人の尊重）
- ・環境権が主張されるようになった経緯と、それに対する国の対策や取り組みをまとめさせる。
- ・自己決定権が、医療の発達に伴う様々な治療方法の選択や生活スタイルの多様化によって新たに主張された人権であるということに気付かせる。

- 14 国際的な人権の保障について調べる。
 ★人権を保障するために、国際的にどのような取り組みが行われているのだろう。
- 人権保障の国際的な広がりについて調べる。
 - 児童労働や子ども兵士がなぜ問題となっているのかについて考える。
 - グローバル化と人権保障の関係について調べる。
- 15 公共の福祉と国民の義務について考える。
 ★様々な権利をもつ私たちは、何に気を付ける必要があるのだろう。
- なぜ自由が制限される場合があるのかについて考える。
 - 国民の義務について調べる。
 - 人権が衝突した事例について調べる。
 - ・歴史的な景観を残すために、建物の修理が制限されていることが分かった。自分たちの住む地域でも、似たような事例がないか調べてみたい。
- 16 日本国憲法の平和主義について考える。
 ★憲法の定める平和主義とはどのような考え方なのだろう。また、なぜそう定められたのだろう。
- 日本国憲法の前文と憲法第9条について調べる。
 - 自衛隊と自衛権について調べる。
 - 日本国憲法は、どのような方法で平和を実現しようとしているのかについて考える。
 - ・日本の平和主義では、憲法第9条で戦争の放棄や戦力の不保持、国の交戦権を否定している。
 - ・日本の防衛原則では専守防衛について書かれており、作戦や戦力は、防衛に必要な最低限度に限られるとされている。
 - 小単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。
 - 日本の平和主義は、どのように生かされていくべきなのだろう。
- 17 日米安全保障条約と日本の国際貢献について調べる。
 ★憲法の平和主義と、日本の安全保障との関係をどのように考えればよいのだろう。
- 日米安全保障条約と日本の安全保障について調べる。
 - 集団的自衛権と安全保障について考える。
 - 自衛隊の国際貢献の様子について調べる。
- 18 単元の学習を生かし、道路の拡張計画について考え、話し合う。
 ★単元の学習を生かし、道路の拡張計画について考え、話し合う。

- ・「確認」に取り組ませることで、科学技術の発展により、人権保障に様々な課題が出てきていることを捉えさせる。
- ・教P. 64～65
- ・グローバル化した社会で起こる課題を、個人の尊重に着目して追究させる。（個人の尊重）
- ・資料③の表から、国際的な取り決めを行っても、すべての国が批准しているわけではないことに気付かせる。
- ・個人の尊重の観点から考えさせる。その際、資料⑤の児童の権利条約の内容に着目させる
- ・社会の変化に伴い、国際的なルールや共通の意思をもつ必要性が生まれていることを捉えさせる。
- ・教P. 66, 67
- ・人権が衝突したときにどのように調整すればよいかについて、対立と合意、個人の尊重に着目して追究させる。（対立と合意、個人の尊重）
- ・資料①を参考に、人権同士が衝突し、対立が起きていることを捉えさせる。そして、そのような状況において他者の人権を守るために「公共の福祉」という概念があることを理解させる。
- ・三大義務のうち、教育および勤労は国民の権利でもあり、国民の権利を守るための義務でもあることを捉えさせる。
- ・「公民+α」にある京都市の景観とまちづくりに関する事例を紹介し、生徒に自分が住んでいる地域や周辺の地域で起きた似たような事例について関心をもたせる。
- 【評】人権が衝突した事例について調べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・教P. 70～71
- ・平和主義の意義を、個人の尊重と法の支配に着目して追究させる。（個人の尊重、法の支配）
- ・歴史的分野での学習を振り返らせる。
- ・教P. 222の前文の中から、平和主義に関する記述を探させる。また、憲法第9条については教P. 70の資料②にある資料活用に取り組ませる。
- ・資料⑥、⑧、⑨を提示し、自衛隊の存在について様々な意見があることを捉えさせる。
- ・戦争の放棄や戦力の不保持、国の交戦権を否定することで平和を実現しようとしてきたことに気付かせる。
- 【評】日本国憲法が定める平和主義について、憲法の条文や資料を基に表現する活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・教P. 72～73
- ・日本の安全保障や世界平和の実現のための日本の活動について、個人の尊重と法の支配に着目して追究させる。（個人の尊重、法の支配）
- ・歴史的分野での学習を振り返らせる。また、地理的分野の沖縄の学習を振り返らせ、「公民+α」と関連付けて捉えさせる。
- ・資料⑤を基に、現在の憲法解釈では集団的自衛権が条件で認められていることを確認させる。
- ・個人の尊重や法の支配の観点から、多面的・多角的に考えさせる。
- ・国際平和のために活躍する一方、外国の武力衝突に巻き込まれる可能性が示唆されるといった課題もあることを知らせる。
- ・教P. 74～75

し合おう。

○ 対立の内容や様々な意見について整理する。

○ 合意に向けて考えをまとめる。

○ 考えたことを話し合う。
・ 地域住民の交通面や不便さや危険性が想定されるためそれを解消するための道路拡張は公共の福祉といえる。
・ 歴史的な景観や住民生活の基礎ともいえる商店がならんでおり、それらを奪うことは地域住民の利益になるとはいえない。

・ これまでに学習した対立と合意，効率と公正個人の尊重，民主主義といった見方・考え方を複合的に用いて追究させる。
・ 主張の根拠となる憲法の条文を示させることで，根拠を明確にして意見を主張する方法を身に付けさせる。
・ 様々な意見について，賛成や反対といった立場や，関わる人権について整理させることで多面的・多角的に対立を捉えさせる。
・ 本時の見方・考え方を基に，多面的・多角的に考えさせる。
・ 賛成，反対のそれぞれの立場ごとに考えをまとめさせる。
・ ここで大切なのは，賛成や反対といった結論を出すことではなく，「個人の尊重」や「効率と公正」といった見方・考え方を踏まえて多面的・多角的に考えることの大切さや，公共の福祉の使用に関しては慎重に議論をする必要があることを捉えさせることである。
【評】 合意に向けての考えを話し合い，多面的・多角的にまとめる活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】